

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																								
都城コアカレッジ		昭和62年12月25日		三原 靖男		〒885-0006 宮崎県都城市吉尾町77-8 (電話) 0986-38-4811																								
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																								
学校法人都城コア学園		昭和62年12月25日		児玉 隆次		〒885-0006 宮崎県都城市吉尾町77-8 (電話) 0986-38-4811																								
分野	認定課程名	認定学科名				専門士	高度専門士																							
工業	工業専門課程	情報デザイン科				平成22年文科科学省告示第31号	-																							
学科の目的	情報通信技術の知識・技術を身につけ、生涯にわたって活用できる資格を有する情報通信技術のスペシャリストを育成する。																													
認定年月日	平成29年2月24日																													
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技																						
		1810時間		300時間	1740時間	600時間	0時間	0時間																						
2	0	時間																												
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)		専任教員数		兼任教員数		総教員数																				
60人		10人		0人		3人		5人		8人																				
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日				成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 科目の総合評価は単位認定試験、授業態度、レポート等を考慮して行う。																							
長期休み	■学年始:4月1日～3月31日 ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月21日～1月5日 ■学年末:3月13日～4月5日 ※学則の休業日は、期日指定ではなく標準日				卒業・進級条件		・必修科目および必要な選択科目をすべて修得していること。 ・卒業に必要な単位数を取得していること。																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 ・月1回の職員会議で対応協議 ・保護者・家族との連携 ・保健部や学生部との連携指導				課外活動		■課外活動の種類 ・学生自治会活動、学校祭実行委員会 ・「オレンジカフェみやこんじょ」におけるパソコン教室のボランティアとして積極的に参加している ■サークル活動: 有																							
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) ICT関連企業				主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業者に係る令和3年5月1日時点の情報)																							
	■就職指導内容 ・計画的な就職カリキュラム ・地域との連携による就職支援 ・実践的な指導体制						<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ITパスポート</td> <td>②</td> <td>6人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	ITパスポート	②	6人	4人												
	資格・検定名	種	受験者数	合格者数																										
ITパスポート	②	6人	4人																											
■卒業者数 6 人 ■就職希望者数 6 人 ■就職者数 6 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 %				※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																										
■その他 ・進学者数: 0人				■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等																										
中途退学の現状	■中途退学者 1名 令和2年4月1日時点において、在学者10名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者9名(令和3年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更				■中退率 10%		■中退防止・中退者支援のための取組 ・経済的問題については奨学金の説明、分納・延納制度で対処している。 ・学力不振等については個別指導、再試験等で対処している。 ・心身の健康問題については担任、保健部、学生部などと連携して対処している。																							
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 ・在学生特待生制度 ・ファミリー入学奨学金制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																													
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																													
当該学科のホームページURL	<a href="https://miyakonojo.core-gakuen.com/information_design_course/">https://miyakonojo.core-gakuen.com/information_design_course/</a>																													

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

情報通信技術の知識・技術を身につけ、生涯にわたって活用できる資格を有する情報通信技術のスペシャリストを育成することを学科方針としており、ICT関連企業等の関係者を教育課程編成委員に選任し、ICT業界の専門性の動向、新たな技術動向に関する知識、技術について、企業関係者からの意見を十分に反映して、授業科目、授業の内容・方法の改善を図っていく方針である。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

別添「都城コアカレッジ 教育課程編成委員会規則」のとおり、校長直轄の組織として本委員会を設置し、カリキュラムの改善に関する意見等を聴取する。これらを基盤に、校長以下工業専門課程の担当でカリキュラムの改善方策について検討を重ね、本校における教育課程のより良い改善を図る。第1回会議で教育課程表(現行)について意見をいただき、その後学内で次年度の教育課程を検討する。第2回会議で教育課程表(次年度)を提示し確認を行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
飯迫 哲浩	株式会社システム・ナイン	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日 (2年)	③
徳留 勝広	株式会社ソフト流通センター	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日 (2年)	③
倉吉 教文	中小企業庁 宮崎県よろず支援拠点	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日 (2年)	①
三原 靖雄	都城コアカレッジ	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日 (1年)	
谷上 智子	都城コアカレッジ	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日 (2年)	
原口 桂一郎	都城コアカレッジ	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日 (2年)	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。  
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和2年9月24日 13:30～14:30

第2回 令和3年3月9日 13:30～14:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

外部委員より、令和3年度より新たに導入する科目「サーバ構築」において、本校では物理サーバーを学習する予定であるが、「業界の流れを鑑みると、仮想サーバーまで学んだ方が良いのではないか」という意見を頂いた。本格的な仮想サーバーの組み込みには経費の関係もあるので構築までいかなくとも学生が仮想サーバーについて理解が進むようにシラバスを検討する予定である。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ICTに関する実践的な授業を行うため、企業に所属する技術者(システムエンジニアやデザイナー)より学生が課題の提示を受け、年間を通じた指導および成果の評価を行う体制をとる。また企業と連携を図ることにより、ICT分野における専門的かつ実践的な知識・技能を有し、即戦力となる技術者を育成することを基本方針とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

本校の専任教員と企業に所属する講師が演習前に事前に打ち合わせを行い、演習内容、学修成果の達成度評価等について定める。演習は講師が専門性の高い技術的な指導を行い、定期的実施する連絡会で専任教員と実施状況の確認を行う。演習終了時講師が評価を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
アルゴリズム	基本情報技術者試験に対応したアルゴリズムを解くために必要な基礎レベル、応用レベル、基本情報技術者試験レベルと段階的に学習する。	有限会社小野設備
プログラム入門	Java言語を使い、オブジェクト指向を使ったプログラムを制作する。	有限会社小野設備
CG基礎 I	PhotoshopやIllustratorなどのソフトの基本操作を学ぶ。また、作品制作を通して、複数のソフトを組み合わせて使用する技術を習得する。	PERKUP合同会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

本法人の「職員の研修に関する規程」第2条では、「研修は、職員に、現在就いている職又は将来就くことが予想される職に係る職務の遂行に必要な知識や技術等を習得させることにより、その職務の遂行に必要な職員としての能力や資質等を向上させることを目的とする。」としている。目的達成のために、年間を通して計画的に研修を実施する。

推薦学科教員は、ICT分野における即戦力となる人材を育成するため、実務に関する最新の知識を企業から習得、又は情報を収集しスキル向上に努める。また毎月実施される校内研修会に全教職員で参加して、指導力向上に組織的に努めることを基本方針とする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「遠隔授業のお役立ちツールAdobe XDのご紹介」(連携企業等: Adobe )

期間: 令和2年9月29日(火) 対象: 教職員向け

内容:

「遠隔でも、グループでアイデア出しなどの共同作業の場をつくりたい」

「XDを使ってみたいが、何から始めればいいのかわからない」

そんな先生方に向けて、Adobe XDの基本操作から遠隔授業にお役立っていただける機能までを幅広く紹介

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「パワーアップ研修 自分らしく働くために」(連携企業等: 公益財団法人 宮崎県私学振興会 )

期間: 令和2年11月12日(木) 対象: 私立学校のすべての教職員等

内容: アンガーマネジメントとコーチング

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「Google for Education 基礎トレーニング」(連携企業等: Google )

期間: 令和3年9月1日(水)～令和3年9月30日(木) 対象: 教職員向け

内容: 各ツール(Google)の使い方、教育現場における活用方法

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「発達障がいを理解する」(連携企業等: 帯広畜産大学 人間科学研究部門 教授 渡邊芳之 )

期間: 令和3年8月19日(木) 対象: コア学園グループ 全教職員

内容: 発達障がい者への支援機関、支援方法 等

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校運営や教育活動等が教育目標にそって計画的に実施され、地域社会や企業、施設等のニーズに合致したものであるかを検証し、学生が実践的な技能や知識、社会人としての責任を自覚した存在たり得ているかを確認するものとして学校関係者による評価を行う。この評価内容については広く公開するものとする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育目的・教育目標・育成人材像は定められ、周知されているか。</li> <li>・学校の特色は明確にされているか。</li> <li>・地域社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。</li> </ul>
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育目的等に沿った運営方針は定められているか。</li> <li>・運営方針に沿った事業計画は定められているか。</li> <li>・運営組織や意志決定機能は明確にされ、有効に機能しているか。</li> <li>・人事や賃金での処遇に関する規定等は整備されているか。</li> <li>・情報システム化等による業務の効率化が図られているか。</li> <li>・教育活動等における情報公開が適切になされているか。</li> </ul>
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学科目標は対応する業界の人材ニーズに向けて方向づけられているか。</li> <li>・教育理念や各学科目標等に沿ったカリキュラムが体系的に編成されているか。</li> <li>・関連する企業・施設等との連携により、カリキュラムの作成や見直しが行われているか。</li> <li>・キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫等が行われているか。</li> <li>・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。</li> <li>・各学科の学習時間は確保されているか。</li> <li>・各学科の教育到達レベルは明確にされているか。</li> <li>・授業評価の実施・評価体制はあるか。</li> <li>・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。</li> <li>・教師のスキルアップや指導力向上の研修が行われているか。</li> </ul>
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率の向上が図られているか。</li> <li>・資格取得率の向上が図られているか。</li> <li>・全員進級への取組がなされているか。</li> <li>・退学率の低減が図られているか。</li> <li>・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。</li> </ul>
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職・進学に関する支援体制は整備されているか。</li> <li>・学生相談に関する体制は整備されているか。</li> <li>・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか。</li> <li>・学生の健康管理を担う組織体制はあるか。</li> <li>・学生自治会活動等への支援体制はあるか。</li> <li>・高校との連携によるキャリア教育の取組が行われているか。</li> <li>・保護者と適切に連携しているか。</li> <li>・卒業生への支援体制はあるか。</li> </ul>
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるように整備され、適切に管理されているか。</li> <li>・学外の実習施設等について、十分な教育体制を整備しているか。</li> <li>・防災に対する体制は整備されているか。</li> </ul>
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集活動は適正に行われているか。</li> <li>・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。</li> <li>・学生納付金は妥当なものとなっているか。</li> </ul>

(8)財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。</li> <li>・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。</li> <li>・財務について会計監査が適正に行われているか。</li> <li>・財務情報公開の体制整備はできているか。</li> </ul>
(9)法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令や専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。</li> <li>・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。</li> <li>・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか。</li> <li>・自己評価結果を公開しているか。</li> </ul>
(10)社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に対する公開講座・社会訓練の受託等を積極的に実施しているか。</li> <li>・学生のボランティア活動を奨励・支援しているか。</li> </ul>
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

令和3年3月、学校関係者評価委員会を開催し、評価委員から貴重な指導・意見をいただいた。「教育環境」では、施設・設備の老朽化という課題に対し、「財政面も考えながら環境改善をすすめてほしい。」という助言をいただき、実習室パソコンの入れ替え等、計画的に進めていく予定である。また、「社会貢献」では、「商工会議所では、Zoomの研修を実施して盛況だと聞いている。御校でも検討してみてはどうか。」という助言をいただいた。令和3年度「都城市デジタル技術活用支援事業」を受託予定であり、親子パソコン講座を実施することで地域住民の方に貢献できるように努める。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年3月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
朝倉 脩二	一般社団法人霧島工業クラブ	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日 (2年)	企業等委員
原口 由美子	都城市北諸県郡医師会 都城健康サービスセンター	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日 (2年)	企業等委員
吉見 いち子	社会福祉法人 観音の里 特別養護老人ホーム高城園	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日 (2年)	企業等委員
出水 勝吾	都城コアカレッジ同窓会	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日 (2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL:

公表時期:令和3年3月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

地域の人材を地域の教育力で育て、地域に活かし地域の活性化を図る「地育地活」を学校運営の基本方針に掲げて推進してきた。地域及び関係団体・病院等へ学校の現況を情報発信することは、「地育地活」を推進する上でも重要である。学生・職員の個人情報に関わらない限り、情報の公開化を推進していく。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・学生募集要項
(2)各学科等の教育	・学科・修業年限及び定員、出願要項 ・進級、卒業、職業実践の校内規定 ・科の特色、目標資格、就職状況、カリキュラム、講義要目 ・資格取得予定表 ・資格取得状況
(3)教職員	・教職員一覧(校務分掌)と組織図
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・実習目的・目標・内容及び計画 ・実習・演習等において連携する企業一覧 ・就職(進路)指導 ・経営者講座の実施内容
(5)様々な教育活動・教育環境	・学生自治会事業報告、事業計画 ・主なボランティア活動 ・施設紹介
(6)学生の生活支援	・学生心得 ・学校生活案内・相談(キャンパスライフ)
(7)学生納付金・修学支援	・学生募集要項
(8)学校の財務	・財務状況 ・監査報告書
(9)学校評価	・自己評価報告書 ・学校関係者評価報告書
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL: <https://miyakonojo.core-gakuen.com/>

授業科目等の概要

(〇〇専門課程〇〇学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○		コアタイムⅠ	都城コアカレッジ全体で取り組む時間であり、人間的資質向上をめざし、社会人としての意識醸成を図ることを目的とする。ボランティア活動への参加を通して地域活動に積極的に取り組む姿勢を学ぶ。	1 通	60	2	○			○	○			
2	○		コアタイムⅡ	都城コアカレッジ全体で取り組む時間であり、人間的資質向上をめざし、社会人としての意識醸成を図ることを目的とする。各種学校行事に主体的に取り組むことで、リーダーとしての役割を学ぶ。	2 前	30	1	○			○	○			
3		○	コアタイムⅢ	都城コアカレッジ全体で取り組む時間であり、人間的資質向上をめざし、社会人としての意識醸成を図ることを目的とする。各種学校行事に主体的に取り組むことで、リーダーとしての役割を学ぶ。	2 後	30	1	○			○	○			
4	○		就職実務	就職試験に必要な筆記試験対策と面接指導、及び、マナーや履歴書の書き方などの指導を行う。	1 後	30	1	○			○	○			
5	○		インターンシップ	企業での就業体験を通して、仕事のイメージを明確にし、自分の適性や将来の進路を決めたり、仕事への適応力を身につけることを目的とし、体験を通して、人間力や社会人基礎力を養う。また、近隣地域の優良企業を訪問し、地元企業の理解を深める。	1 後	40	1			○	○	○			
6	○		ICTテクノロジー	コンピュータの構成要素やコンピュータ内部における数値表現、基本装置と処理形態、ネットワーク、そして、コンピュータを使う上で必要とされるOSや処理プログラム、情報を管理するために必要なファイルとデータベースのデータ構造、アルゴリズム、システム開発について学習するとともに、基本情報技術者試験対策として必要な知識を学習する。	1 前	150	5	○			○	○			
7	○		ICTマネジメント・ストラテジー	基本情報技術者試験に対応したIT業界のプロジェクト管理やマネジメントおよびシステム戦略・経営戦略などを中心に学習する。	1 前	90	3	○			○	○			
8	○		表計算対策	基本情報技術者試験に対応した表計算問題を解くために必要な基本知識を基礎レベルから応用レベルへと段階的に学習する。	1 前	30	1	○			○	○			
9	○		アルゴリズム	基本情報技術者試験に対応したアルゴリズムを解くために必要な基礎レベル、応用レベル、基本情報技術者試験レベルと段階的に学習する。	1 通	60	2	○			○	○	○	○	

10	○		プログラム入門	Java言語を使い、オブジェクト指向を使ったプログラムを制作する。	1通	120	4		○	○		○	○
11	○		基本情報技術者試験対策	情報処理技術者試験の受験対策を行い、資格取得を目指す。定期的に模擬試験を実施し、結果を詳細に分析して弱点を克服していくために学習する。	1後	120	4		○	○		○	
12	○		システム設計演習	システム開発における基本計画、外部設計、内部設計、プログラム設計、テスト仕様書設計の各工程における作業概要を学習する。また、UMLの基礎について学ぶ。	1後	30	1		○	○		○	
13	○		情報リテラシ	ワープロ、表計算技能、並びに情報処理活用能力の習得を目的とする。又、各種検定試験対策を行う。	1通	90	3		○	○		○	
14	○		ITパスポート試験対策	ITパスポート試験の受験対策を行う。	1後	30	1	○		○		○	
15	○		マルチメディア基礎	画像や映像、文字、音声などの素材を、様々なメディアで活用するために、デジタル化されたデータを、同一レベルで処理、加工するための基礎的な技術を学ぶ。	1通	60	2		○	○		○	
16	○		プレゼンテーション技法	テーマをもとに調査し、誰もが理解でき、読みやすい文書を書く技術を学習する。かつ、プレゼンテーション資料を作成し、発表を行う。	2前	30	1		○	○		○	
17	○		データベース設計	Accessについて、演習を通じて基本操作を学習する。	2前	30	1		○	○		○	
18	○		CG基礎 I	PhotoshopやIllustratorなどのソフトの基本操作を学ぶ。また、作品制作を通して、複数のソフトを組み合わせる技術を用いて習得する。	2前	30	1		○	○		○	○
19	○		課題研究 I	ETロボコン大会参加のための知識と技術について、開発環境の構築からプログラミング、そして、UMLを使ったモデリングの基礎技術を学ぶ。	1後	60	2		○	○		○	
20	○		課題研究 II	ETロボコンの大会規定に基づいたモデル図・企画書の作成をはじめ、プログラミング開発を行い、センシング技術を学ぶ。	2前	90	3		○	○		○	
21	○		ゲームプログラミング	ゲーム開発エンジンを使って、ミニゲームを開発しながらゲーム開発の基本を学ぶ。	2前	60	2		○	○		○	
22	○		ネットワーク構築	LinuxOSを使い、ネットワークの標準であるインターネットの技術を用いたネットワークの構築（IPアドレス・DNS・DHCPなど）について学ぶ。	2前	30	1		○	○		○	
23	○		サーバー構築	Web・mailなどのサーバ構築からCMSの標準であるWordPressでのWebサイト運用やRDBMSのMySQLを活用したDB運用についても学ぶ。	2後	60	2		○	○		○	



24	○	卒業制作	2年間の集大成として、業務システムを原則としてグループ作業で開発する。その際、システムの計画、設計、開発および運用までの全工程を体験し、発表を行う。	2後	210	7		○	○	○								
25	○	職業実践	学生の実務における技能や人間関係づくりの向上を図るため、就職を前提として、病院・施設・企業等と学校が連携して実践的な指導を行う。	2後	560	14		○	○	○								
26	○	プログラム応用Ⅰ	Java言語を使い、データベースやWebプログラムを作成する。	2前	30	1		○	○									○
27	○	プログラム応用Ⅱ	Java言語を使い、データベースやWebプログラムを作成する。	2後	60	2		○	○									○
28	○	国家試験対策Ⅰ	情報処理技術者試験の受験対策を行い、資格取得を目指す。定期的に模擬試験を実施し、結果を詳細に分析して弱点を克服していくための学習をする。	2前	120	4	○		○									○
29	○	国家試験対策Ⅱ	情報処理技術者試験の受験対策を行い、資格取得を目指す。定期的に模擬試験を実施し、結果を詳細に分析して弱点を克服していくための学習をする。	2後	60	2	○		○									○
30	○	CG応用Ⅰ	AfterEffectsやLightwaveなどのソフトを活用し、具体的な成果物を作成する過程において、グラフィックの表現方法や、ウェブなどの様々なメディアにおける活用の方法などを学ぶ。	2前	60	2		○	○									○
31	○	CG応用Ⅱ	AfterEffectsやLightwaveなどのソフトを活用し、具体的な成果物を作成する過程において、グラフィックの表現方法や、ウェブなどの様々なメディアにおける活用の方法などを学ぶ。	2後	60	2		○	○									○
32	○	デザインⅠ	絵を書くためのデッサン技術を基礎から学習する。また、アナログな課題制作を通じてデザインを学び、物の見方やデザイン感覚を身につける。	2前	60	2		○	○									○
33	○	デザインⅡ	絵を書くためのデッサン技術を基礎から学習する。また、アナログな課題制作を通じてデザインを学び、物の見方やデザイン感覚を身につける。	2後	60	2		○	○									○
合計					33科目			2640単位時間(						83単位)				

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	24週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。